



九州地域情報化研究会  
平成20年2月23日（土）  
国民健康保養センター かんざき

## ネットワーク型協働モデルの実践

飯盛敦博 e-mail: [info@tasteps.jp](mailto:info@tasteps.jp)



**ていすとビジネスサービス**

Taste Business Services  
Singapore

# 役職など

## ■ 役職

- ていすとビジネスサービス 代表
- 飯盛教材株式会社 専務
- 財団法人日本SOHO協会 理事

## ■ 団体

- SOHO SAGA(非営利の社会市民組織) 代表

## ■ 登録

- 新連携支援アドバイザー(独立行政法人中小企業基盤整備機構九州支部)
- 地域資源活用支援アドバイザー(独立行政法人中小企業基盤整備機構九州支部)
- 財団法人佐賀県地域産業支援センター専門家(情報化、国際化)

## ■ 委員

- 久留米市産業力強化推進委員
- 佐賀県高度情報化推進協議会幹事会委員

## ■ 受賞など

- 第5回、第8回テレワーク推進奨励賞を受賞(社団法人日本テレワーク協会)
- 2007年度、2008年度佐賀県協働化テスト採択(雇用労働課SOHO支援)

## 略歴

- 平成10年
  - 「アジアの連携」「SOHO起業家の育成」で活動を展開。
  - 大手企業とマルチメディア教材の市場開拓を行う。
- 平成13年
  - シンガポール在住し、SCMプロジェクトリーダー、マーケットリサーチを行う。
- 平成16年
  - 財団法人日本SOHO協会理事に就任。
  - SOHOネットワークをアジアで展開したことが評価され、第5回テレワーク推進奨励賞を受賞(社団法人日本テレワーク協会)。
- 平成18年
  - 佐賀県高度情報化推進協議会事業検討部会委員。
  - SOHO SAGAの提案が佐賀県協働化テストで採択。
- 平成19年
  - シンガポールでビジネス登録。
  - 地域での情報化推進が評価され第8回テレワーク推進奨励賞を受賞(社団法人日本テレワーク協会)。

# ネットワーク型協働モデルとは

## ■ ネットワーク組織

- 特定の目的達成を目指して、分権された自律的な個人や集団、組織が水平的なネットワークを通じて緩やかに結合して、協働の規範やメカニズムを共有しながら、市場や外部環境を基準として自己組織的に柔軟に組み替えることのできる組織構造 若林(2005)

## ■ コ・ソーシング

- 緊密な提携関係による互いに相手のサービスを活用しあう 花田(1996)

## ■ ネットワーク型協働モデル

- 開かれた組織と対等なパートナーシップにより、事業者が有機的に連携し、経営資源を有効に組み合わせて、イノベーションや新規事業の創造、新規市場の開拓につなげるモデル

# ネットワーク型協働モデルの効果

- **多様な主体が発信する情報を結合させて価値を増大させる 國領(1999)**
  - 日本の持つ強みがネットワークによって増幅され、活力ある社会をつくる
  - 「巡り合い」さまざまな技術や着想を持つ人間同士が出会うことによる新しいビジネス
- **新連携**
  - 異分野連携新事業分野開拓
- **地域資源の活用(中小企業地域資源活用プログラム)**
  - 地域固有の自然、歴史、景観、伝統文化だけでなく、社会システム、人材まで含めた概念
- **九州を「異との融合の最先端地域」に 九州経済産業局**
  - 地域間、業種間、企業規模(間)等のあらゆる目に見えない「壁」を取り払う

# 実践事例 SOHO'S REPORT

- 1998年創刊のSOHOテレワーク支援を行う団体のコラボレーションによるメールマガジン
- 約6千人の読者を持ち、日本全国、さらに海外からも参加
- 実践コミュニティを形成
  - 共通の関心や課題を持った人の集まり
- 新しいビジネスや組織を創造
- 殿堂入りメールマガジンに認定
  - まぐまぐ公認



# 実践事例 SOHOアジア

- 1998年、関西デジタルコンテンツ事業協同組合顧問の塩見政春氏とWIPジャパン代表取締役の上田輝彦氏と設立
- メールマガジン「SOHOアジアレポート」を発行
- シンガポールガイドの「スーパーおすすめメールマガジン2004」を受賞
  - All About Japan主催
- SOHOテレワークをアジアに拡大したことを評価され第5回テレワーク推進奨励賞を受賞
  - 社団法人日本テレワーク協会

社団法人日本テレワーク協会 第5回テレワーク推進賞2004

**奨励賞 SOHOアジア 殿**

● **会社概要** ●  
 所在地:シンガポール  
 代表:飯盛 敦博氏  
 (いさがい のぶひろ)  
 従業員:2人(ネットワーク30人)  
 実施:1998年4月から



● **事業の概要と特徴** ●

▲ 当社は、シンガポールを活動の拠点とし、テレワークの普及、SOHO支援活動として、1998年4月、SOHOアジアのホームページを開設。メールマガジンSOHOアジアレポートの発行で九州、シンガポールのSOHO事業者、SOHO支援のネットワークを構築。またSOHOによる地域振興をコンセプトとしたSOHO筑後川副代表もつとめる。

▲ アジアITビジネス研究会での講演、日経産業新聞IT時評の執筆するなどのほか、メーリングリストで情報を共有するなどの活動を展開している。

2004@Japan telework association

社団法人日本テレワーク協会 第5回テレワーク推進賞2004

**奨励賞 SOHOアジア 殿**

● **表彰テーマ** ●

「SOHOによる地域振興」「アジアの連携」に関する支援活動

● **表彰理由** ●

① テレワークをグローバルな視点で捉えることの先進性と先導者的活動を評価した。

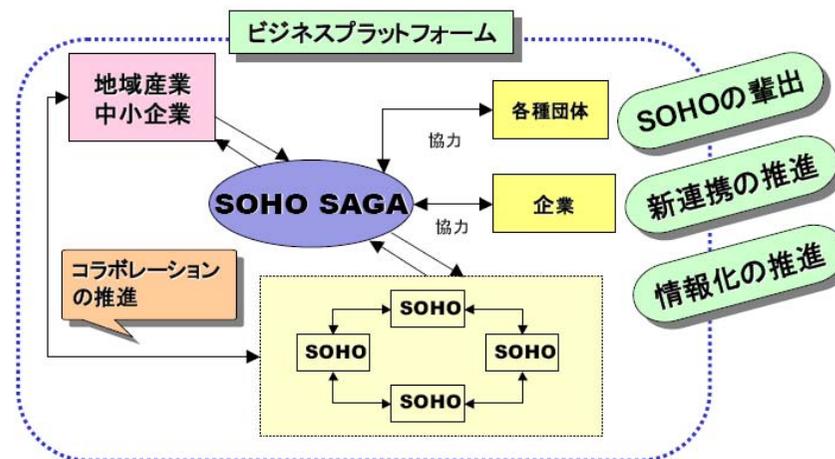
② 特にアジアを対象とし、共生することを目指していることが評価された。アジアで構築した情報をいよいよ日本国内で展開することが期待されている。

【写真上から】  
 ▲ 事務所  
 ▲ 自宅兼オフィスがあるセントラルグリーンエンドニアム。  
 ▲ 自宅の仕事部屋  
 ▲ よく仕事や打ち合わせをするマッドドフスターハウス。ホトスボットが動く、インターネットが使える。

2004@Japan telework association

# 実践事例 SOHO SAGA

- 2006年にICTの利活用による地域振興の手段としてのSOHOテレワークを支援するCSOとして設立
- 2007年度、2008年度佐賀県協働化テストを採択
  - 雇用労働課SOHO支援
- 第8回テレワーク推進奨励賞を受賞
  - 社団法人日本テレワーク協会

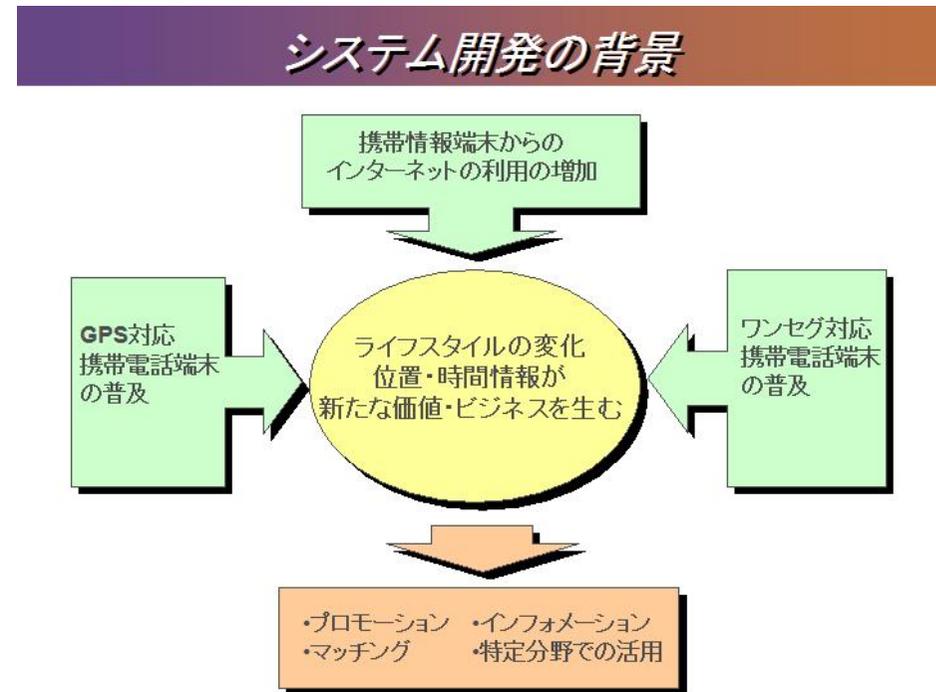


## SOHO SAGAの構想



# 実践事例 ロケーションワン研究会

- 現在進行中の産学連携による研究会
- 大学、放送局と「ワンセグ、位置情報」による地域資源を活用したビジネスモデルの構築を目指す
- 研究の背景
  - 放送と通信の連携によるクロスメディアが可能であり、いつでもどこものユビキタスメディアである
  - パソコンやテレビでリーチできない時間や場所にいる人へのマーケティング
  - 街頭や駅中広告に匹敵する「背中の一押し」効果
  - 視聴の時間帯や場所がテレビと違う
  - 携帯電話の即時性、伝播性といった特徴が活用
  - 時間の細分化が活用



# さいごに

- ネットワーク型協働モデルを行うには
  - 積極的な情報発信
    - より良質の情報を発信すれば、情報が集まる
  - 自立
    - 11月1日は「SOHOの日」  
SOHOのキーコンセプトである3つのI(アイ)を数字になぞらえたもの  
自分らしさを見つめ、自分のステップアップにつながるような生き方(自立)について考えるきっかけとなる日
      - IDENTITY 自分らしく生きる
      - INDEPENDENT 独立・自立した生き方を示す
      - INDIVIDUAL 個人・個性ある生き方を示す
  - 行動力
    - 何かを始めない限り成長はありえない
    - 思い立ったら、まず行動する
    - できることから始める

# 参考

## ■ 文献

- 若林直樹「ネットワークで経営する」田尾雅夫、若林直樹、佐々木利廣 編著『はじめて経営学を学ぶ』ナカニシヤ出版、2005年
- 國領二郎『オープン・アーキテクチャ戦略』ダイヤモンド社、1999年
- 花田光世「「自律・協創・志」の組織パラダイム マルチプル・コ・ソーシングによる未来組織の創造」ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部『アウトソーシングの実践と組織進化』ダイヤモンド社、1996年

## ■ Webサイト

- ていすとビジネスサービス<<http://tastebusiness.jp/>>
- 財団法人日本SOHO協会<<http://www.j-soho.or.jp/>>。
- 社団法人日本テレワーク協会<<http://www.japan-telework.or.jp/>>
- SOHO'S REPORT<<http://www.sohosreport.net/>>
- SOHO SAGA<<http://soho.isagai.jp/>>